



言語による  
自己実現

こんな勉強をしたい  
自分から進んで活動

関心・意欲

書くこと

話すこと

言葉を選ぶ  
自分の思いを込めて  
心の動きを文章化  
伝わりやす工夫する

身体表現

音読・朗読

心に残ったできごと  
自分の思いを話す  
自分の考えを人に伝える  
人を説得する

表現する実践する

振り返る

自己

評価・相互評価

表現する

- ・相手意識
- ・目的意識
- ・場の設定
- ・活動の状況
- ・評価

イメージを本ける  
深める

- ・キーワードの着目
- ・言い換え
- ・関連付け・比喩
- ・類別化する
- ・劇化音読音の込み

支援

問いを生む

- ・題名読み
- ・感想の比較
- ・問題作り
- ・驚きを持つための提示
- ・読み聞かせ

考える  
想像する

情景を思う・感じる  
人物に同化する  
言葉に込められたものを選ぶ  
人とかう見方・考え方を  
人の考えと結びつける  
人の考えと比較する

感動する

問いを持つ

作品のすなわしき  
に気付く  
疑問を抱く  
心に残る場面や  
言葉を見つめる  
調べる  
取材する

共感する

気づく・感じる

言葉の楽しさ・リズム・響き

# 1 国 語 科

—豊かな感性を育む国語科の学習—

羽場邦子・曾根照三・福島靖之

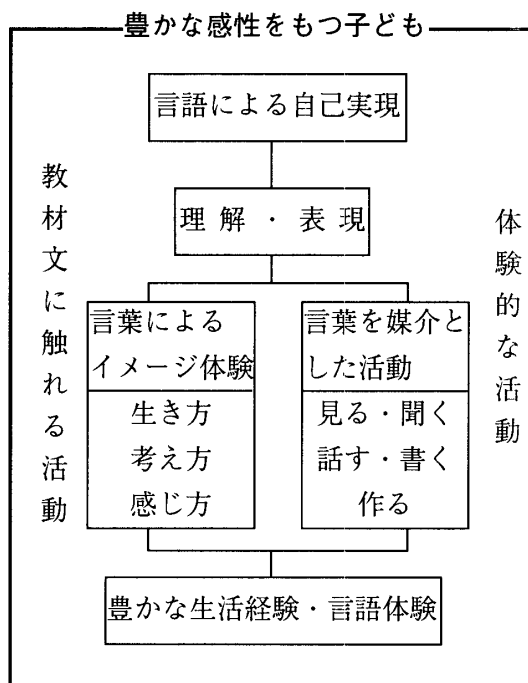
## 1 感性を育む国語科学習

国語科がめざす豊かな感性をもつ子どもの姿を、次のように考える。

- ① 言葉自体のもつおもしろさに気づく子
- ② 登場人物に同化し、お話の世界に入り込む楽しさを味わう子
- ③ 登場人物の生き方や考え方を知り、その価値に触れる子
- ④ 自分なりに生き生きと表現する子
- ⑤ 友達のよさに気づく子

このような子どもの姿を学習の場において実現するために、次の点を重視する。

- ✍ 教材と出会った時の驚きや感動を大切にする。
- ✍ 五感を働かせて、経験を生かして想像する。
- ✍ 音声や文章、体で表現する。
- ✍ 言語感覚を磨く。



## 2 感性を育む授業づくり

### (1) 学習過程

【感性を育むための学習過程及び教師の支援】

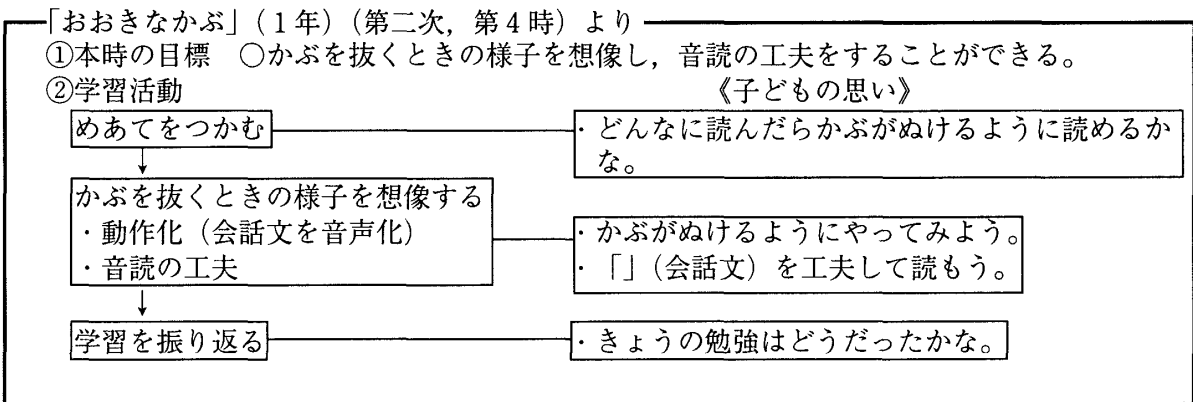
学習過程（1単位時間）

子 ども			教 師 の 支 援		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>めあてを持つ場</b>                      ・めあて意識                      ・めあて追求の意欲                 </div>	学校対象への迫り方		・教材の提示  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         子ども一人一人の気づきや                          感じ方に気づき感じる                          ↓ ↑                          子ども自らの考えを意味づける                          ↓ ↑                          子ども自らの表現を認め励ます                          ↓ ↑                          子どもへの共感的な理解                     </div>		
	気づき 感じる	想像する 感じる			表現する
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>めあてを追求する場</b>                       ・自分の学習を見つめての自己評価                      ・自分や友達のよさに気づく相互評価                 </div>				・学習状況の把握 次時への見通し	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>振り返る場</b>                       ・めあてに照らした自己評価                      ・自分の変容・高まりに気づく                      ・次時へのめあて・意欲                 </div>					

子どもたちが題材にかかわる時、自ら感じたり気づいたりすることで、問いを生み、めあてをもって学習に向かう。さらにイメージを広げ考えを深め、思いを表現する。楽しさは、自分の内面から発する欲求が実現したときに感じる。今年度は、《想像する・考える》の学習ステップに焦点をあてて授業づくりをしていく。国語科におけるイメージ体験は、豊かな生活経験に支えられている。学習の場でも、できるだけ体を使っての活動を入れ、体験を通して言葉の学習を行っていききたい。

(2) 豊かな感性を育むための条件～文学教材に焦点をあてて～ (◎は、今年度の重点とする項目)

- ① 子ども一人一人が、新鮮な驚きや発見をもって出会えるような題材を選ぶ。
- ② 子ども一人一人が、自分自身のめあて意識をもった学習を進めていくことが何より大切である。そのため、初発の感想や子どもの問いを大切にしたい授業展開を工夫する。
- ◎③ 作品の一語、一音、一句にも作者の生命の灯がともっている。子ども一人一人の気づきや感じ方を表現する場を設定し、イメージ豊かな授業を展開する。
- ◎④ 一人一人の問いや発想を大切にするために、選択の自由を取り入れた学習を展開する。
- ⑤ 学習したことを振り返る場を設定し、教師と子ども、そして、子どもどうしの人間的なふれあいや学び合いを大切にする。

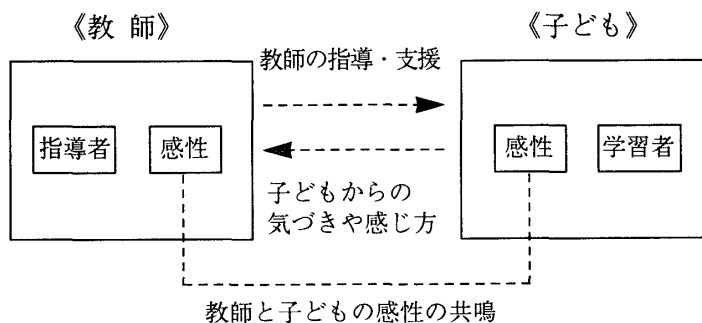


(3) 互いのよさを認め、高め合う学級づくり

これまでも、「自分のよさや友達のよさを認め、互いに向上していることを、ともに喜びあえる受容的・支持的学級風土づくり」をめざしてきた。自分や友だちのよさに気づき、互いを高め合うための評価力の育成の基盤として学級づくりを大切にする。

(4) 豊かな感性を育む教師の支援

教師の「支援」は「指導」の中に含まれ、教師から子どもへと与えられるものと考えられがちであった。しかし、授業の中では子どもの気づきや感じ方は多様である。それらによって、改めて教師が気づかされたり、考え方をえたりすることもあり、それが学習の高まりに結び付くこともある。そういう意味では、支援とは教師と子どもとの両方から発生し互いに共鳴しあうものであると考えられる。子どもの気づきや感じ方は、具体的には、発表やつぶやき、ノート等への記述として表れる。教師はそれを感じ取り、自らの考え方に取り入れ、より適切な形にして子どもに返していくことが大切である。



3. 今後の課題

- (1) イメージ豊かな授業展開をするための授業形態を工夫をする。
- (2) 感性を育むという視点で題材を見直し、再構成していく。